

分科会名 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> 図画工作科 </div> 令和5年6月7日（水）	会 場 川崎市立川崎小小学校 助言者 川崎市立小学校図画工作科教育研究会顧問 川崎市立川崎小学校 校長 中臣 信丈 川崎市総合教育センター 長澤 秀行 授業者 川崎市立川崎小学校 小川 俊輔 鈴木 千尋 司会者 川崎市立新城小学校 鈴木 貴久 記録者 川崎市立四谷小学校 原 美由紀 世話人 川崎市立久本小学校 野原 和美 出席者数 69名
---	--

1 提案の概要

題材名「きってはって わくわくおはなしすごろく」工作（2年生 工作に表す活動）
 誰もが楽しく遊ぶことを目的としたゲームをつくる、工作に表す題材である。児童の身近なゲームとして馴染み深いすごろくを扱うことで、自分のつくりたいもののイメージをしっかりともてるようになることを意図した。自分のイメージを主体的に形や色で表せるようになるという資質・能力の育成を目指した。

題材名「クリスタルアニマル」立体（3年生 立体に表す活動）
 光を通す材料を組み合わせ、思いついた生きものをつくる題材である。光に当てて見え方を試したり確かめたりすることを繰り返しながら、形や色の感じを基に自分のイメージをもち、表したいことを見つけ、思いを形にしていくことができるようにしたいと考えた。

2 研究協議の概要

子どもの姿の実際と手立ての効果について

- （2年生）
- 「参考作品のすごろく」で遊ぶことを通して、「マス（ルート）」や「仕掛け（ルール）」、「飾り」を工夫してもっと楽しいすごろくをつくれることに気付けるよう、遊ぶ時間を設定した。すごろくへの関心をもち続け、遊びながら思考を連続させている姿につながったといえる。
 - 既習内容がわかるヒントコーナー／板書の工夫によって、考える要素の多いすごろくではあるものの、ヒントコーナーや板書の手立てが効果的で、既習を生かしながら自分の思いを形にしていた。「マス（ルート）」をつくるという目的が伝わっていて、材料を無駄にすることのない姿が見られた。
 - お話や出来事と「マス（ルート）」「仕掛け（ルール）」を関連させて考えることで、造形的な見方・考え方を働かせ、テーマに合わせた色を選びながら「マス」をつくっていた。振り返りの中で、「テーマに近づけていくために、どんな飾りをつくったらよいか」を考える等、自身で課題を見出している姿もあった。
- （3年生）
- 暗い部屋があることで、何度も光のよさを感じながら活動することができた。つくりながら試す、試しながらつくるといった試行錯誤する姿が見られた。キラキラする光を楽しんでほしい、じんわり色が変わっていくことで「照らす」ということに着目してほしいと考え、単色ではなくレインボーのLEDライトにした効果があったといえる。

3 研究のまとめ（指導講評）

- （川崎市立川崎小学校 中臣 信丈校長） 「主体的・対話的な深い学び」は、授業改善の視点であり、実現するためのカギとなるのは、造形的な見方・考え方を働かせることである。今まで以上に、形や色に意識をもち形や色に豊かに関わることでの子の育成を目指す必要がある。自立して学びを深めることができる学習者を育てるために、個別最適な学び、協働的な学びが一体的に充実させるという学習の方法論を用いながら、授業を構想する必要がある。図工の授業は、①主題（テーマ） ②材料 ③技法で決まる。今回はどちらにも共通して、廢材に材料という視点を与える（「こんないいもの」と価値を変えさせる）授業だった。すばらしい作品とは、子どもが自分の作品についてたくさん語れるものといえる。そのためには、自分なりのテーマ、思いがあることが必要である。そこで大切となるのは、題材名の設定が挙げられる。題材名が、わくわくして「やりたい！」と思え、何をするのかがわかり、学習を進めていく指針となっているとよい。「きってはってわくわくおはなしすごろく」（2年生）は、働かせる技能がわかる。「光輝くクリスタルアニマルをつくらう」（3年生）は、光を生かしながら活動することがわかる。本時で見られた、しかけやルールだけに目を向けるのではなく形や色にこだわり、しっかり見たり（2年生）、動物というしぼりがあることで手や足などのパーツについて考えたりしている姿（3年生）は、造形的な見方・考え方を働かせている姿であると言える。
- （総合教育センター指導主事） 本題材は双方とも、①安全指導 ②試す場 ③表し方例の提示についてよく考えられた実践といえる。2年生の題材では、箱が段差になるようにつなげて工夫して表したり、リズムよくマスを並べていたり、しっかりとテーマをもって取り組んだりしている姿が見られた。3年生では、ものを組み合わせたりものを切って組み合わせたりしてよりよい表現になるよう考えている姿、はさみを自分なりに工夫して使用する姿が見られた。「A表現」及び「B鑑賞」の指導を通して、〔共通事項〕に示された事項を身につけられるよう、意識して指導することが大切である。技能は、積み重ねていくことによって身に付くものである。形成的な評価の充実にもむけ、指導者が児童の姿を適切に見取り、価値づけていくことが重要である。

